ASEAN グローバルプログラムに参加して

竹　井　颯　太
Hayata TAKEI
物質化学科　2 年

1. はじめに

2019 年 8 月 27 日から 9 月 5 日までの 10 日間，ベトナムのハノイおよびシンガポールで数々のプログラムを行える ASEAN グローバルプログラムに参加した．プログラムの日程を表 1 に示す．8 月はベトナムに滞在し，ハノイ工業大学にて PBL などを行った．9 月はシンガポールに滞在した．

表 1　日程

8/27	ハノイ着 オリエンテーション
8/28	工場・IT 企業見学
8/29	PBL
8/30	PBL 発表
8/31	ハノイ観光
9/1	シンガポール着 Tong 氏講演会
9/2	南洋工科大学訪問（講義参加，研究室見学）
9/3	IT 企業訪問，ビジネスパーソン交流会， 加藤氏講演会
9/4	自由時間
9/5	日本着

2. 参加目的

自分が ASEAN グローバルプログラムに参加した主な目的は以下の 2 つであった．

1 つ目は「今の自分の英語力を知る」ということである．特にこの狭い日本の龍谷大学の中でなく，広いアジアの国の同じ学生と比べる，ということを目的にしていた．2 つ目は「自分の視野・選択肢を広げる」ということである．海外での交流，企業訪問により見えてくる，得られるものがあると思い参加した．

よって，プログラム中は日本では得られないものを得ることを意識した．

3. 研修内容

このプログラムでは講演会や企業の方の話を聞く機会が数多くあった．またハノイ工業大学の学生との PBL も行えた．これについては現地に行く前から日本で事前学習を行い，自分の中では今回のプログラムのメインと捉えていたので，この PBL について以下に詳しく報告する．

今回の PBL では「栄光堂の塩レモンキャンディをベトナムで大ヒットさせる」ことをテーマとし，日本人学生 5 人とベトナム人学生 2 人でチームを組み，2 日間取り組んだ．活動は，まず自分たちが事前に日本で考えてきたことをベトナム人学生に伝えることから始まった．それを英語で説明するのも難しかったが，英語での質問に英語で答えるということが最も難しかった．二日目の昼に行った英語による発表よりも，その場で考えて相手がわかるように伝えなければいけないという点で，やりとりや議論は難易度が高く感じた．またベトナム人学生の英語をこちらが聞き取れない・理解できないというのも大きな障害となり，自分たちの英語力の低さを実感させられた．だが，英語力が低いなりに身振り手振りなどのジェスチャーを使いコミュニケーションをとることができたのは，自分なりには自信もつき，良い点だったと思う．

大学内でのアンケートを行ったが，その結果からは，自分たちの「栄光堂の塩レモンキャンディの知名度が低い」という仮説が正しいものであると確認することができた．その後，アンケート結果から追加の質問について議論し，追加のアンケートを行った後，大学内で先に述べた英語によるプレゼンを行った．時間の都合もあり，ベトナム人学生があまり議論に参加できず，日本人学生が内容を決めるような形になってしまったのは反省すべき点だったが，

図 1　PBL での発表の様子

プレゼン自体は内容が伝わりやすいように，あまり難しくない単語・文法を意識して作成するよう努力した．英語でのプレゼンというのは初めてのことで，とても良い経験になった．

その後，ホテルで栄光堂の現地工場長とマーケターの田中氏に対して，日本語での最終プレゼンを行った．自分たちの班は，知名度を上げることが大切，という内容で，アンケートの結果も紹介しながら説明した．栄光堂の現地工場長，プロの仕事として実際にマーケティングをされている方から，教授とは違った視点からのアドバイスを数多く頂け，自分たちの足りない部分などに気づくことができた．他の班の発表について自分も発表を聞きながら意見を考えていたが，審査，コメントをして頂いたお二人の意見は自分の考えとは全く違ったものがほとんどで，視点の違いを感じた．

この PBL を通し英語で自分の意見を伝えることの難しさを学ぶことができた．また自分の英語力の低さを痛感した．

4. おわりに

以上のように，私は参加した目的を達成することができた．

ベトナム人学生との PBL では，今の自分の英語力がベトナム人学生と比べて大きく劣っていることを知れた．ベトナム人学生との交流だけでなく，現地での買い物でも自分の言いたいことを英語で伝えることの難しさを知った．企業訪問では，去年このプログラムに参加し，それからベトナムでインターンをされている方の話も聞くことができた．「インターンシップ」というものについては考えたことがあったが，日本を出て海外でインターンシップをするというのは考えたことがなかったが，今回そのようなことをしている方や，したことがある方の話を直に聞けて，自分もするべきという思いがわき，できる気がしてき，新たな選択肢を得ることができた．なお，これについては，去年に本プログラムに参加された先輩が，もう今年には海外（ベトナム）でインターンシップをしているということを知り，非常に刺激を受けた．

この 10 日間のプログラムで自分の考え方・意識が大きく変化したと感じる．英語だけでなく専門科目についての意識も変わりこれからの大学生活，人生に大きな影響を与えていくと思う．

最後に，このプログラムでお世話になった方々への感謝を，この場を借りてお礼申し上げます．

図 2　PBL 終了後の表彰式